

## 学習指導案の形式（例） 高等学校

◇学習指導案には、定まった形式や基準はない。生徒の実態や指導内容、指導者の構想や意図により、様々に創意工夫していくことが求められている。「高等学校学習指導要領解説（平成30年7月 文部科学省）」、「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料（令和3年8月 国立教育政策研究所）」等を参考に作成する。

### 情報科（科目名）学習指導案

〇〇高等学校 〇〇科 〇年〇組  
令和〇年〇月〇日（〇）第〇校時 〇〇教室 指導者 〇〇 〇〇

#### 1 単元名

◇学習指導要領に示す「第2款 各科目」における各科目の「1 目標」及び「2 内容」の項目等をそのままりごとに細分化したり整理したりしたものを「内容のまとまり」という。この「内容のまとまり」を踏まえて、単元や題材を設定する。

#### 2 単元の目標

◇学習指導要領の「内容のまとまり」の記載事項等を踏まえて設定する。

- 例（1）「知識及び技能」に関する目標  
（例：～理解する。～身に付ける。等）  
（2）「思考力、判断力、表現力等」に関する目標  
（例：～考察する。評価し、改善する。等）  
（3）「学びに向かう力、人間性等」に関する目標  
（例：情報社会に参画する態度を養う。等）

#### 3 単元の評価規準

- ◇評価規準の設定に当たっては、「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」等を参考にして適切に設定する。  
◇「知識・技能」は「内容のまとまりごとの評価規準（例）」を基に、該当の単元名や題材名を記載し、評価の観点の趣旨を踏まえて、評価規準を作成する。  
◇「思考・判断・表現」は「内容のまとまりごとの評価規準（例）」を基に、評価の観点の趣旨を踏まえて、評価規準を作成する。  
◇「主体的に学習に取り組む態度」は「内容のまとまりごとの評価規準（例）」を基に作成する。  
◇資質・能力の育成が、「内容のまとまり」を越えて継続する場合も考えられる。このことに配慮して、長期に渡るポートフォリオに基づく評価も必要に応じて導入することが考えられる。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
（単元の目標に対して） ～について（を）理解している。 ～ができる技能を身に付けている。 等	（単元の目標に対して） ～考察している。 ～評価し、改善することができる。 等	（単元の目標に対して） ～しようとしている。 等

4 指導上の立場

○単元観

◇指導者の立場で書く。

○生徒観

○指導観

- ◇単元観…学習指導要領の記述から「単元を通して身に付けたい力」について整理すると共に、「単元の系統性」（何を学んできたのか、今後どんな学びにつながるのか）も併せて整理する。その際、教科書教材や資料集等の分析を行い、その単元の難しさを把握し、生徒の学習課題を把握して書く。
- ◇生徒観…単元や本時に関する「既習事項の定着状況」と「学習に対する課題」を生徒の実態として記述し、整理する。
- ◇指導観…単元観と生徒観で記述した「学習上の課題」を克服するための指導者の意図や思いを「学習指導のためのアプローチ」として具体的な指導・支援の手立てを書く。これが研究授業の「研究仮説」や「提案性」につながる。

5 指導と評価の計画

小単元等	授業時間数	
1	○時間	○時間
2	○時間	
3	○時間	

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	評価規準及び評価方法
1	◇生徒の立場で書く。	知 思		～を理解している。～見いだす力を身に付けている。【ワークシート】
2	◇「重点」には、その時間に生徒の学習状況を重点的に評価する観点を書く。  ◇「知」は「知識・技能」、「思」は「思考・判断・表現」、「態」は「主体的に学習に取り組む態度」を示している。	思		～を通し、～について、選択判断する力を身に付けている。【ワークシート】
3		知 思	○ ○	◇「記録」の欄の「○」印は、評価規準に照らして、生徒全員の学習状況を記録に残す場面として示している。空欄は評価を行わないことではなく、形成的な評価に重点を置いて、生徒の活動を見取り、次の指導に生かしたり、生徒一人ひとりのよい点や可能性、進歩の状況などについて積極的に個人内評価を行ったりする。
4				

◇記録に残す評価の設定は、単元に応じて適切に設定する。定期考査等の活用も考えられる。

6 本時案（第○次 第○時）

(1) 本時の目標

- ◇「2 単元の目標」「5 指導と評価の計画」との整合を図る。
- ◇本時の評価規準との整合を図る。
- ◇生徒の立場で書く。

(2) 展 開

学習活動	教師の指導・支援	評価規準及び評価方法
1  ◇生徒の立場で書く。	◇指導者の立場で書く。	◇生徒の立場で書く。
2  目標 ◇単元における本時の位置づけを踏まえ、何をどのように学ぶのかを明確にし、生徒の立場で本時の目標（又はめあて・課題等）を書く。  ◇活動に順序がある場合は、(1)(2)で書く。  ◇導入・展開・終末の学習過程に沿って、生徒の学習活動を具体的に書く。 ◇授業展開については、「岡山型学習指導のスタンダード（授業5）」を参考にす。	◇学習活動に沿って、指導・支援の意図、指導方法の工夫等について留意すべきことを具体的に書く。 ・生徒が主体的に学習を進めるための手立て ・生徒が対話的に学習を進めるための手立て ・生徒が学習を深めるための手立て ・生徒一人ひとりの学習状況に応じた手立て ・予想される生徒の反応 ・資料提示のタイミングや方法 ・効果的な学習方法や学習形態の工夫・準備物 等 ◇学習活動と教師の指導・支援との関わりを対応させて書く。 ◇「努力を要する」状況（C）と判断される生徒への手立ての例を示す。	◇単元を通して資質・能力を育成する踏まえるための評価規準を具体的に表現する。面箇所に絞る。 ◇評価の場は1、2箇所に絞る。 ◇評価規準に合わせた評価の観点・項目を明確にする。 ◇評価方法を具体的に書く。
4  まとめ	◇本時に何を学んだのかが分かるように整理し、本時の目標と対応したまとめを書く。	◇評価方法の例 ・発言の内容 ・行動の観察 ・ノート、ワークシートの記述 等
5	◇学習の成果が自覚できる振り返りの視点を明確にして書く。振り返りの視点は、『岡山型学習指導のスタンダード【増補版】授業改善「一歩先へ！」』を参考にす。	

◎「おおむね満足できる」状況（B）と判断する生徒の姿の例

- ◇本時の評価規準に照らして、本時でねらう生徒の姿について、想定される生徒の発言や記述例等を取り入れながら具体的に書く。なお、ここに挙げる具体的な生徒の姿が、どのような指導によって表れるのか等、指導と評価のつながりを意識して書く。

(3) 準備物

- ◇ワークシート、プリント、その他実習等に必要な準備物を書く。